

6 緩やかに回復した生産活動

本県の生産活動は、2000年は輸出主導で堅調に推移したが、01年に入ると、米国経済の減速による輸出の後退、設備投資を始めとする国内需要の伸び悩みにより停滞した。しかし、02年に入ると、海外景気が徐々に回復したことにより輸出が増加し、生産回復の動きがみられた。03年前半は、生産活動は概ね横ばいで推移したが、後半に回復基調となった。04年は、03年後半からの回復の動きを受け、生産指数は2月を除き100を超えて推移し、ほぼ横ばいの動きながらも好調を持続した。05年に入ってから回復の動きが続いている。

04年の鉱工業生産指数は103.2で前年比5.1%の上昇となり、3年連続で前年を上回った。愛知県鉱工業指数の業種分類に基づく業種別にみると、全20業種中、輸送機械工業、一般機械工業、電気機械工業など12業種で上昇し、繊維工業、木材・木製品工業など8業種で低下した。

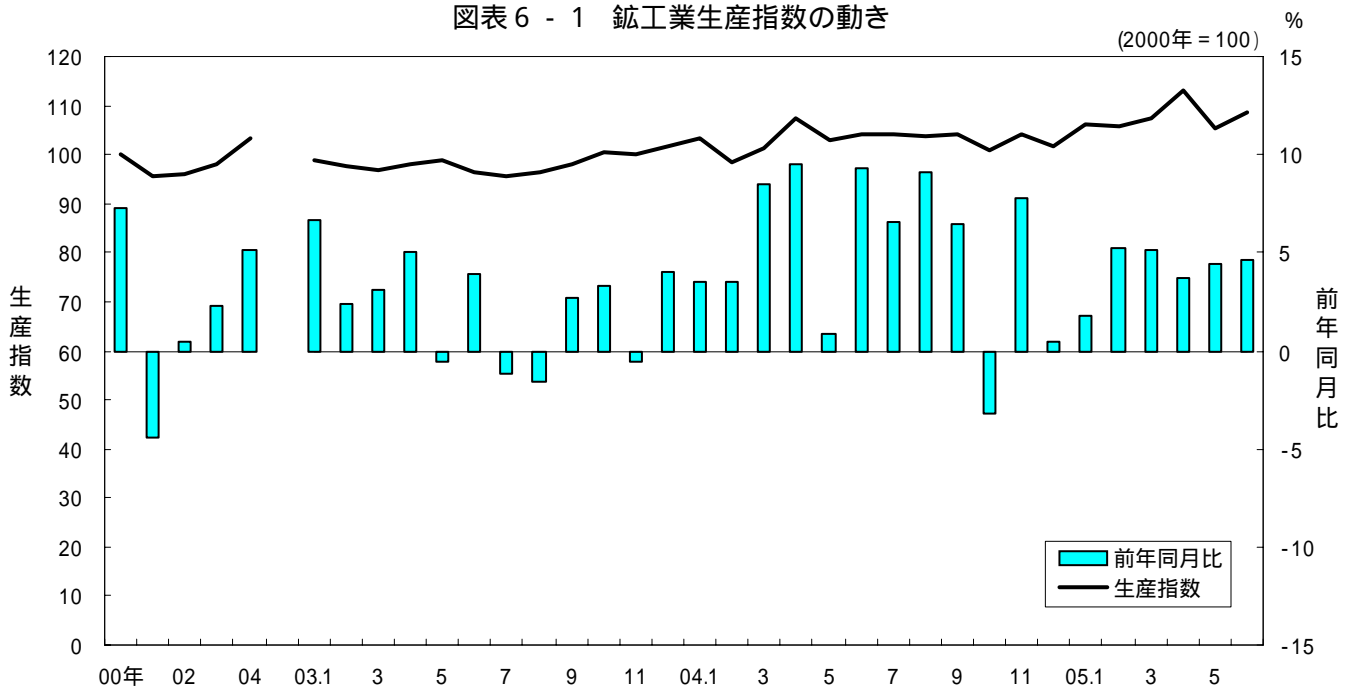
生産指数の動きを月別にみると、03年後半は回復の動きをみせながらも、前年比減の月もみられたが、12月に前年比増に転じた後は、04年10月の1か月を除いて回復の動きが続き、05年に入ってから好調が持続している（図表6-1）。

こうした動きを四半期別に前年同期比でみると、01年10-12月期にボトムを脱し、02年1-3月期、4-6月期と減少幅を縮小し、7-9月期にはプラスに転じた。03年7-9月期には輸出の鈍化により伸びがやや低下したが、10-12月期以降、輸出の増加や設備投資の回復に伴い前年比増加傾向が顕著となり、04年10-12月期には気候要因や前年同期の反動で一時的に伸びが縮小したが、05年に入って再び増加傾向が顕著となった。

04年の生産を財別にみると、投資財のうち建設財は公共工事の減少が続いていることなどから前年比0.2%減となったが、資本財は設備投資の増加の動きなどを受けて同8.3%増となり、投資財全体では同6.0%増となった。また消費財のうち非耐久消費財は同2.0%減となったが、耐久消費財が同5.3%増となり、消費財全体では同3.8%増となった。生産財は、生産回復の動きに伴い同5.6%増となった。

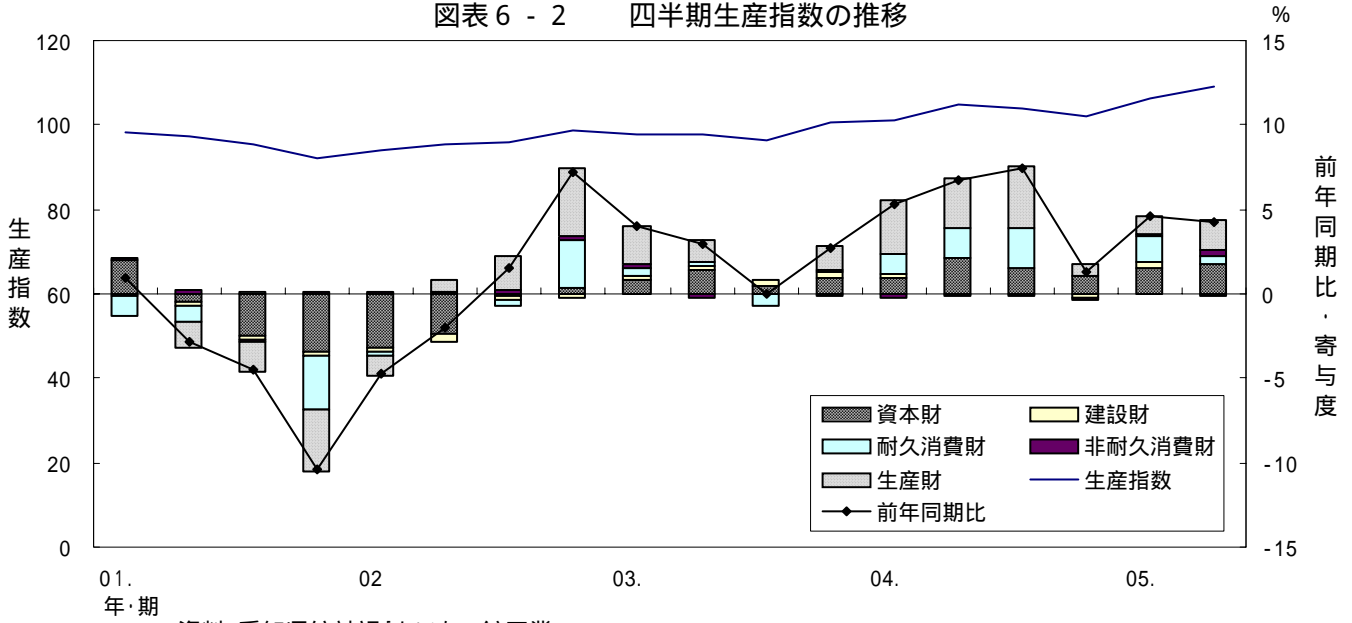
このように、04年は景気回復の効果から、投資財、消費財、生産財ともに、1年を通じてほぼ一貫して前年比増の動きが続き、10-12月期には一時的に伸びが縮小したが、05年に入ってから前年比増の動きが続いている（図表6-2）。

図表6-1 鉱工業生産指数の動き



資料：愛知県統計課「あいちの鉱工業」

図表 6 - 2 四半期生産指数の推移

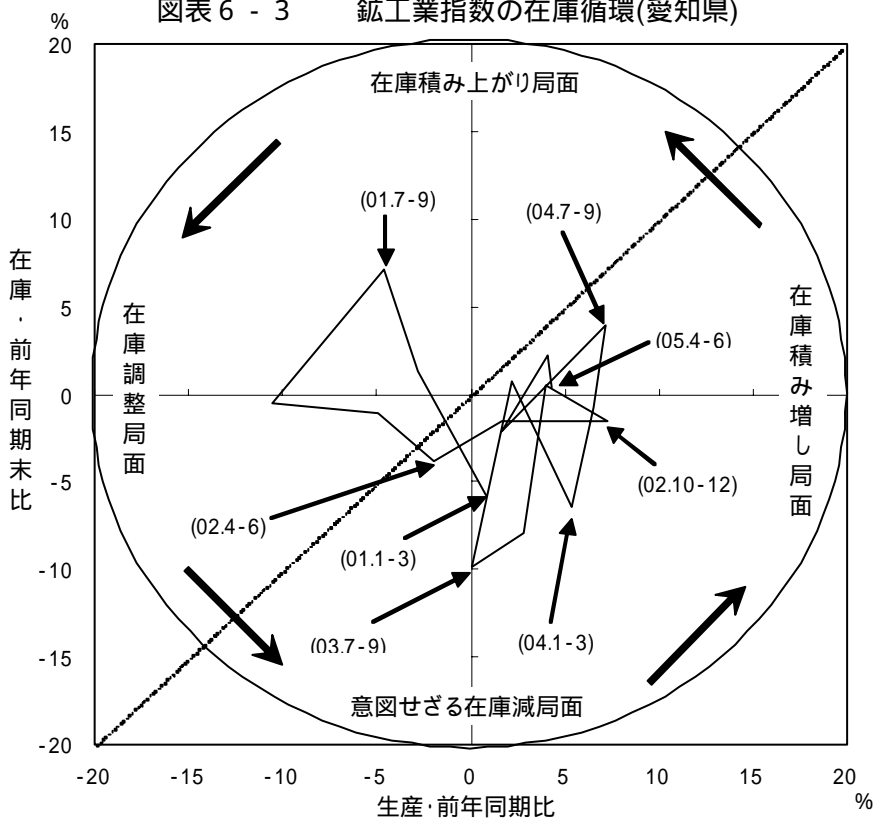


資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」

本県の生産と在庫の動きを在庫循環図でみると、2001年1-3月期に景気が後退期に入り、生産の伸びが低下した。4-6月期、7-9月期と生産は減少を続け、在庫は上昇し以降「在庫調整局面」に入った。02年7-9月期、10-12月期と景気回復に伴い生産が緩やかに増加してきたが、依然デフレ下であり、在庫投資は抑えられた。03年4-6月期、7-9月期にはやや生

産が伸び悩み「意図せざる在庫減局面」に入った。04年1-3月期に入り生産が回復し、7-9月期にかけて「在庫積み増し」局面に入ったが、デフレの長期化により本格的な「在庫積み上がり」局面には至らなかった。10-12月期には再び生産の伸びが低下したが、05年1-3月期にはすぐに生産の伸びは回復し、在庫も増加しつつある(図表6-3)。

図表 6 - 3 鉱工業指数の在庫循環(愛知県)



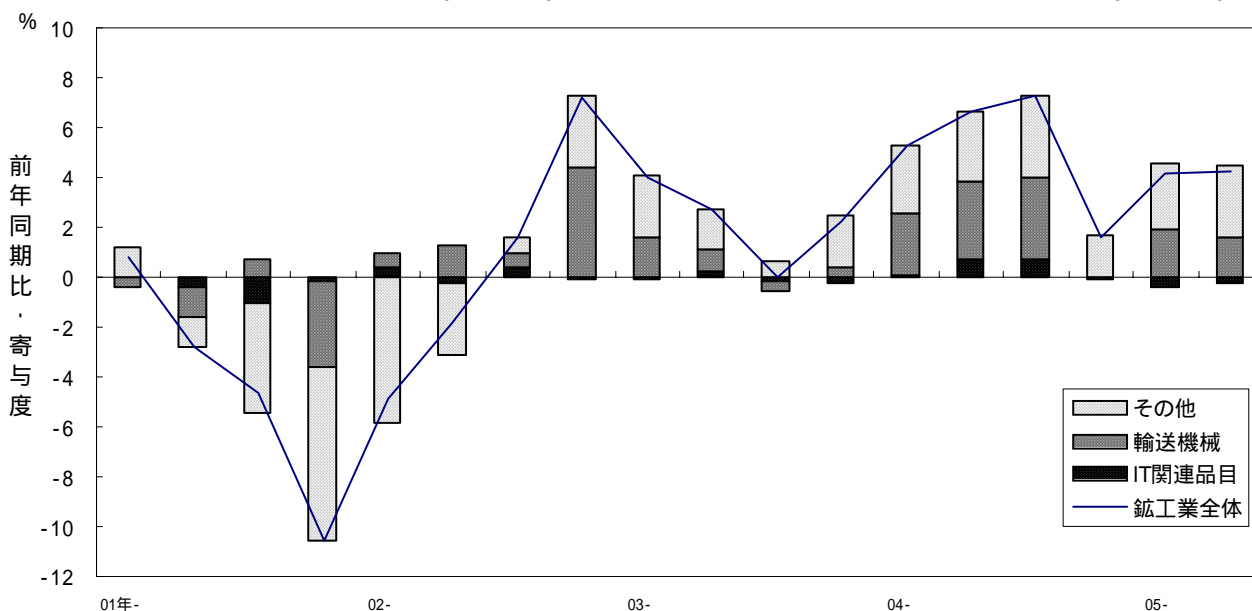
資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」

次に、本県の主力産業である輸送機械と04年後半のわが国の経済成長鈍化要因の一つであったIT関連品目についてみていく。

輸送機械とIT関連品目のウェイトを全国と本県で比較すると、全国では輸送機械が12.3%、IT関連品目（経済産業省「鉱工業指数」の通信機械、電子計算機、電子部品・デバイス工業とした。）が15.2%と、輸送機械よりIT関連品目の方が大きいのにに対し、本県では輸送機械が37.5%、IT関連品目が3.9%と、輸送機械の割合がIT関連品目の約

10倍もあり、全品目に占める割合も極めて大きい。このため本県では、輸送機械が生産の増減に寄与する割合が全国と比較して非常に大きく、逆にIT関連品目の寄与は小さい。04年後半にIT関連品目の輸出の伸びがアジアやアメリカ向けを中心に減速したことなどからわが国の経済成長が鈍化した際も、本県においてはその影響は小さく、輸送機械を中心に、04年第4四半期に一時的な低下はみられたが、05年に入っても生産は好調に推移している（図表6-4）

図表6-4 鉱工業生産指数（四半期）における輸送機械とIT関連品目の寄与度（愛知県）



注 本県のIT関連品目は、通信機械、電子部品、電子計算機、ファインセラミックスの機能材の合計

資料：愛知県統計課「あいちの鉱工業」

（主要業種の動向）

2004年は、前年に引き続き本県の主力産業である輸送機械、一般機械の伸びが続いたほか、電気機械も回復基調となった。しかし、05年に入ってから再び輸送機械、一般機械が主として生産増加に寄与している（図表6-5）

一般機械工業

2004年の一般機械の生産指数は99.2で、前年比10.0%の上昇となり、2年連続で前年を上回った。これは、世界経済が回復し輸出が好調に推移したこ

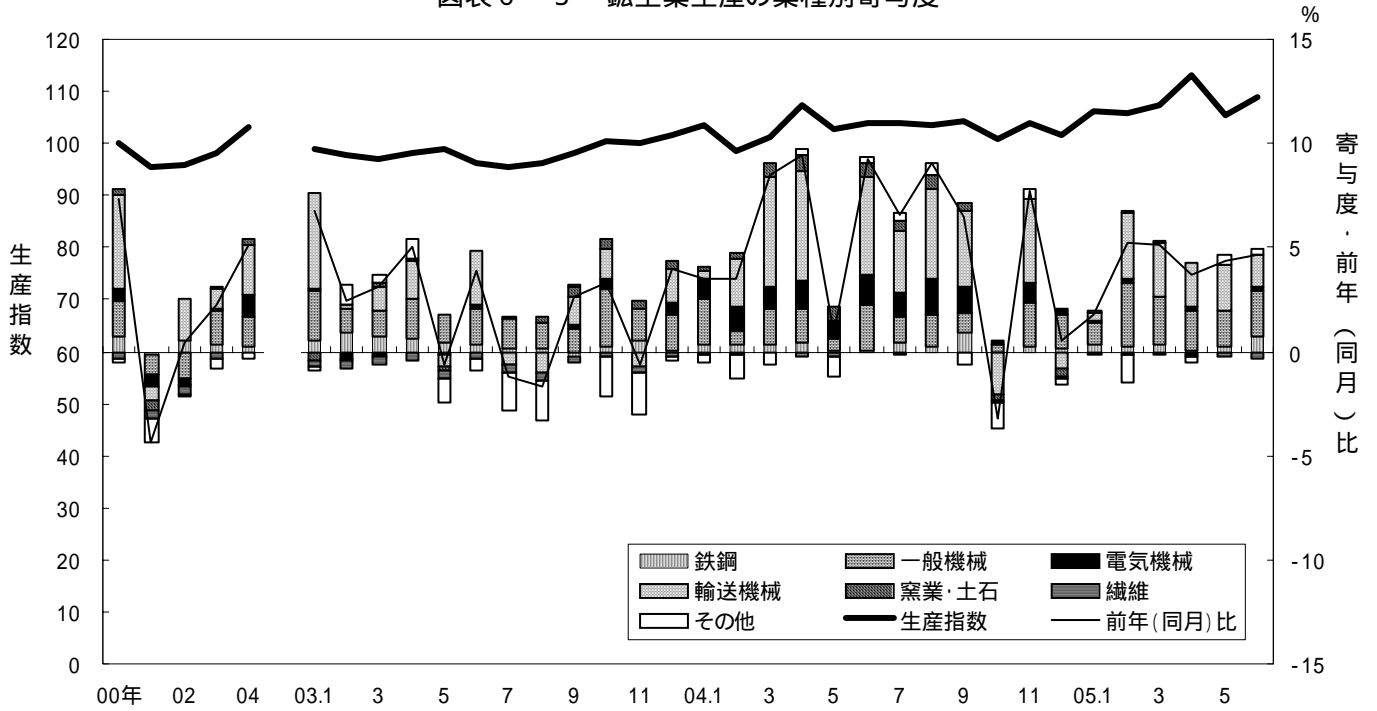
とや、年後半には勢いがやや鈍化したものの、国内経済が回復し、自動車、一般機械、電気機械など幅広い業種で設備投資の動きが拡大したことから、金属工作機械が前年比22.8%増、運搬機械が同17.2%増となったことなどによる（図表6-6）

中部経済産業局の「金属工作機械受注状況」で中部地方の金属工作機械メーカー主要9社の受注状況を見ると、国内受注合計が前年比48.4%増、海外受注も北米向けが同37.0%増、EU向けが同38.8%増、アジア向けが同37.1%増と地域の偏りなく増加し、海外受注合計で同30.0%増、国内受注、海外受注を

併せた全体で同 42.8%の大幅増となった。05 年に入り、04 年に受注が大幅に増加した反動や、年後半から景気回復の勢いが鈍化したことなどにより、前年

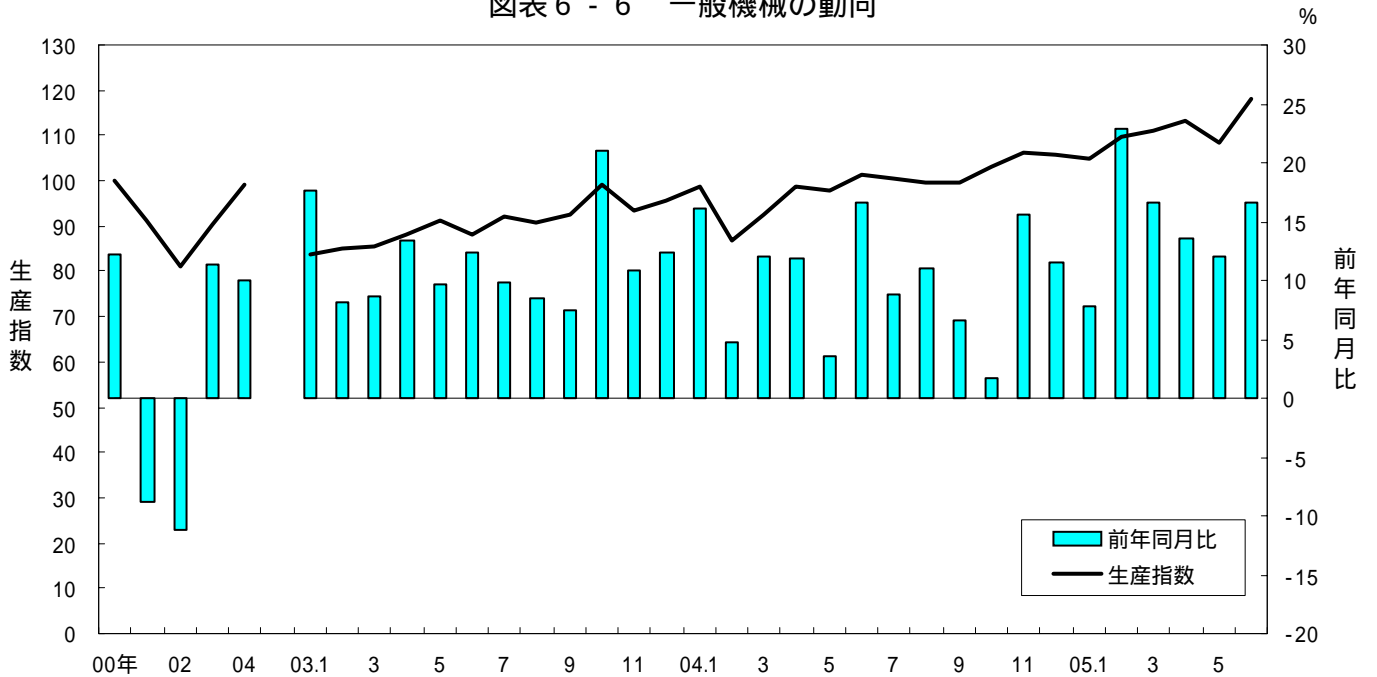
比増加幅は縮小しているが、依然堅調な動きをみせている（図表 6 - 7）。

図表 6 - 5 鋳工業生産の業種別寄与度



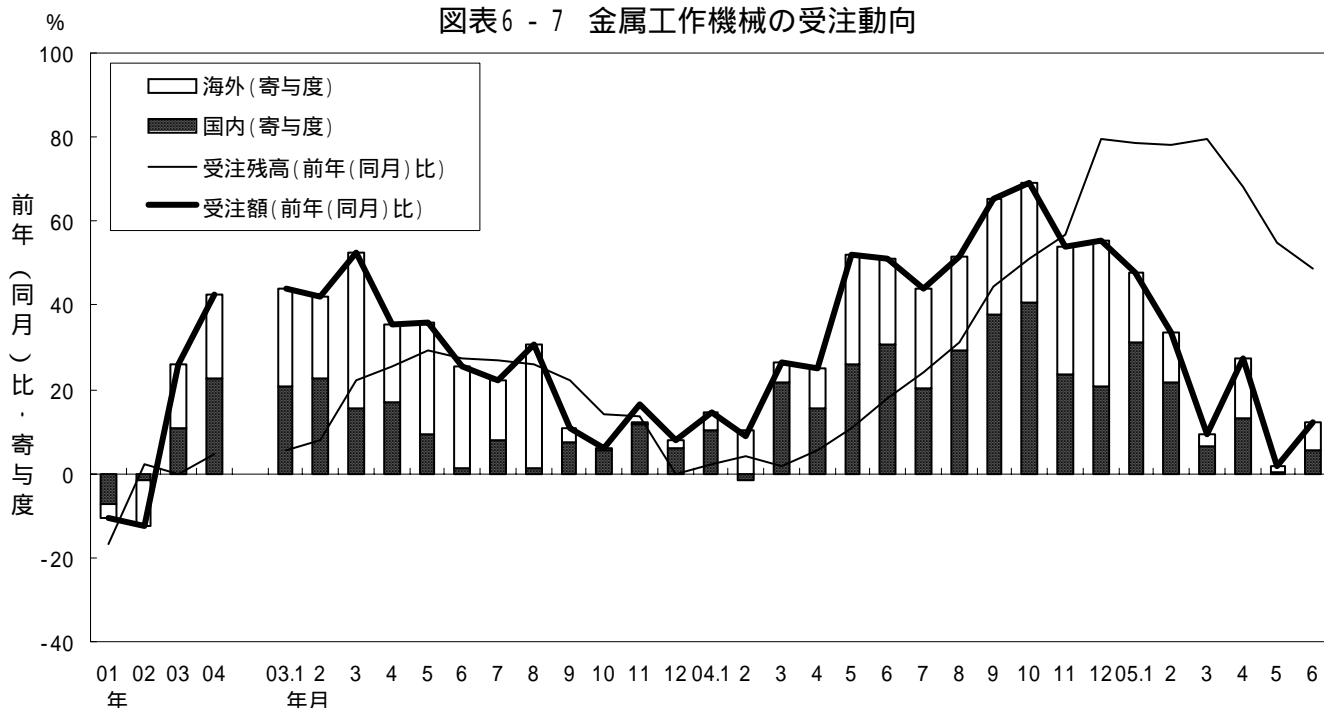
資料：愛知県統計課「あいちの鋳工業」

図表 6 - 6 一般機械の動向



資料：愛知県統計課「あいちの鋳工業」

図表6 - 7 金属工作機械の受注動向



資料: 中部経済産業局「金属工作機械受注状況」

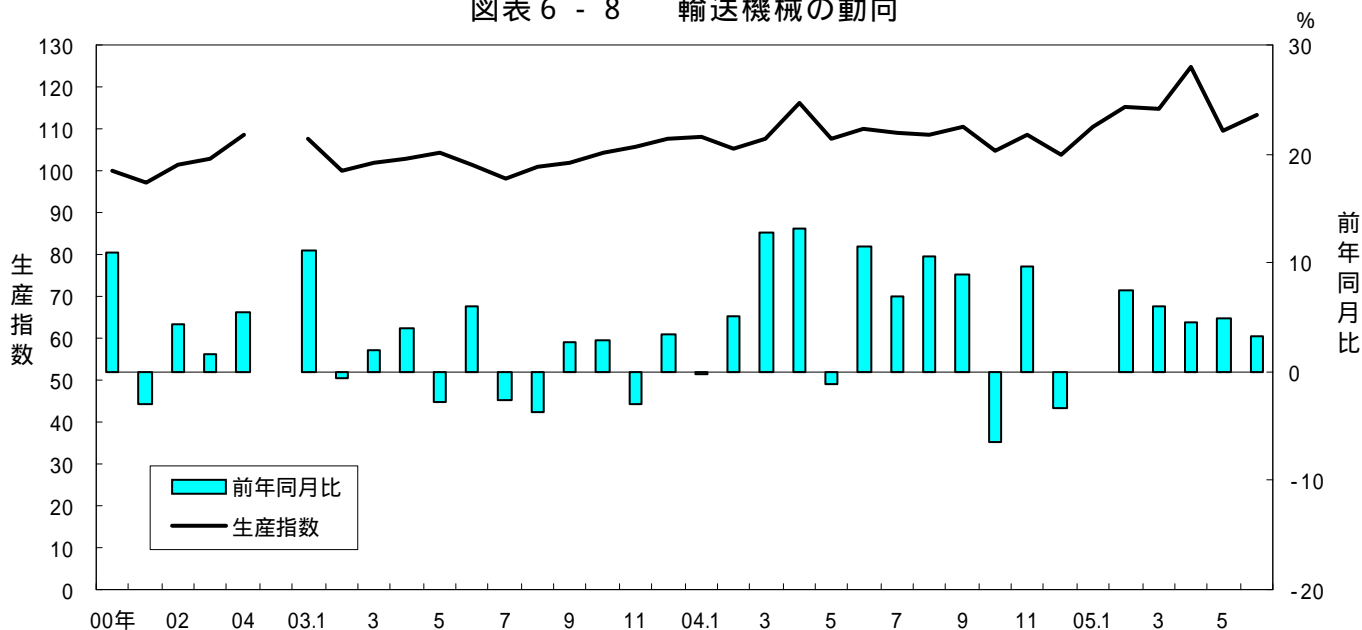
輸送機械工業

本県の基幹産業である輸送機械の 2004 年の生産指数は 108.6 で、前年比 5.4%の上昇となり、3年連続で前年を上回った。これは自動車が前年比 5.1%増、自動車部品が前年比 6.6%増となったこと

などによる。

04 年の 1 年間の動きをみると、生産指数は 03 年以来の増加傾向が基調として継続したが、前年同月比をみると、増加幅は 1 年を通じてほぼ一貫して減少傾向が続いた(図表 6 - 8)

図表 6 - 8 輸送機械の動向

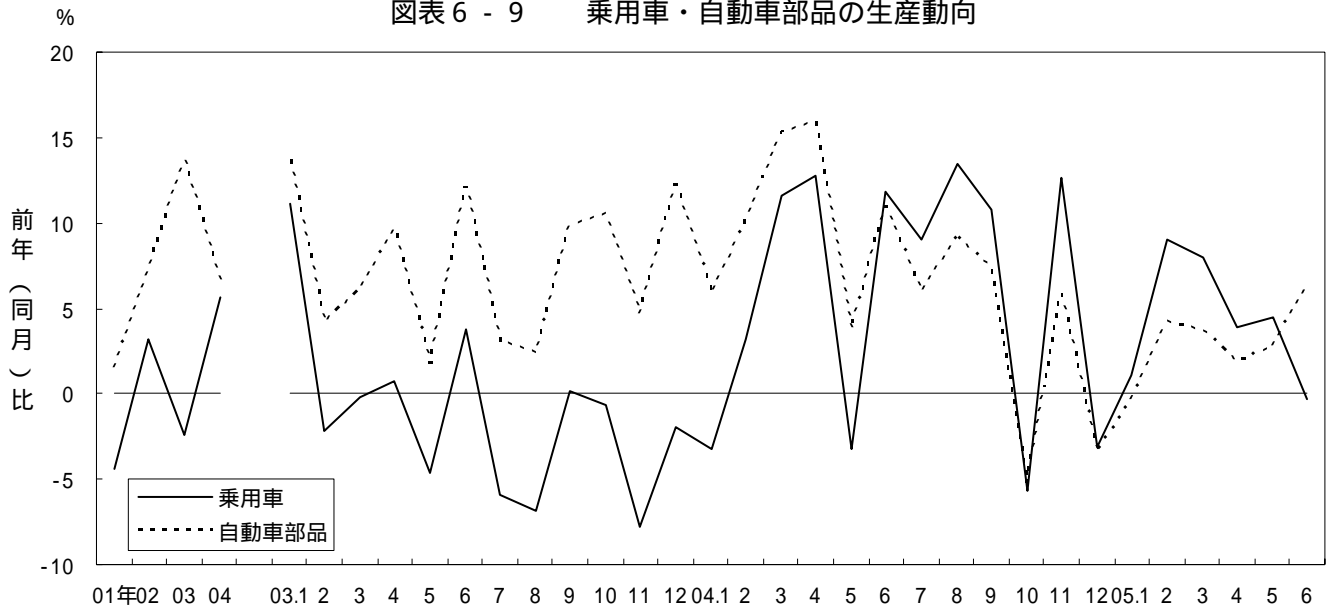


資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」

輸送機械工業の中で約 65%のウェイトを占める乗用車生産の動きをみると、04年に入ってから、乗用車販売が前年比増に転じたことを受け、前年比増に転じ、1年を通して概ね好調を維持した。また、約 30%のウェイトを占める自動車部品は、国内・海

外向けともに好調だった 03年に引き続き、04年も好調を維持した。05年に入ってから、海外現地生産の増加などの要因もあり、増加幅は減少傾向にあるが、乗用車、自動車部品ともに好調を維持している(図表 6 - 9)。

図表 6 - 9 乗用車・自動車部品の生産動向



資料:愛知県統計課「あいちの鉱工業」

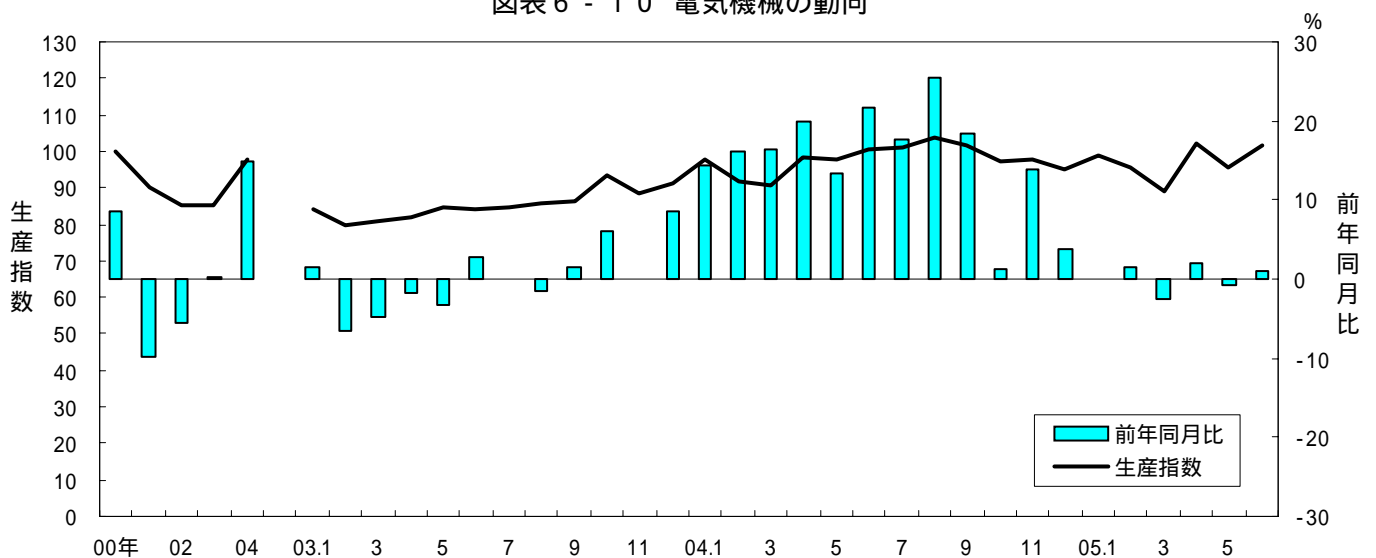
電気機械工業

2004年の電気機械工業の生産指数は 98.0 で前年比 14.9%の大幅増となり、2年連続で上昇した。これは、産業用電気機械の開閉制御装置・機器が前年比 27.7%増、自動車関連の内燃機関電装品が前年比

8.6%増となったことなどによる。

なお、前年 20.1%減となるなど大幅減少が続いていたエアコン、電気洗濯機等の民生用電気機械は、04年は同 2.4%増となり、減少傾向に歯止めがかかった(図表 6 - 10)。

図表 6 - 10 電気機械の動向



資料:愛知県統計課「あいちの鉱工業」

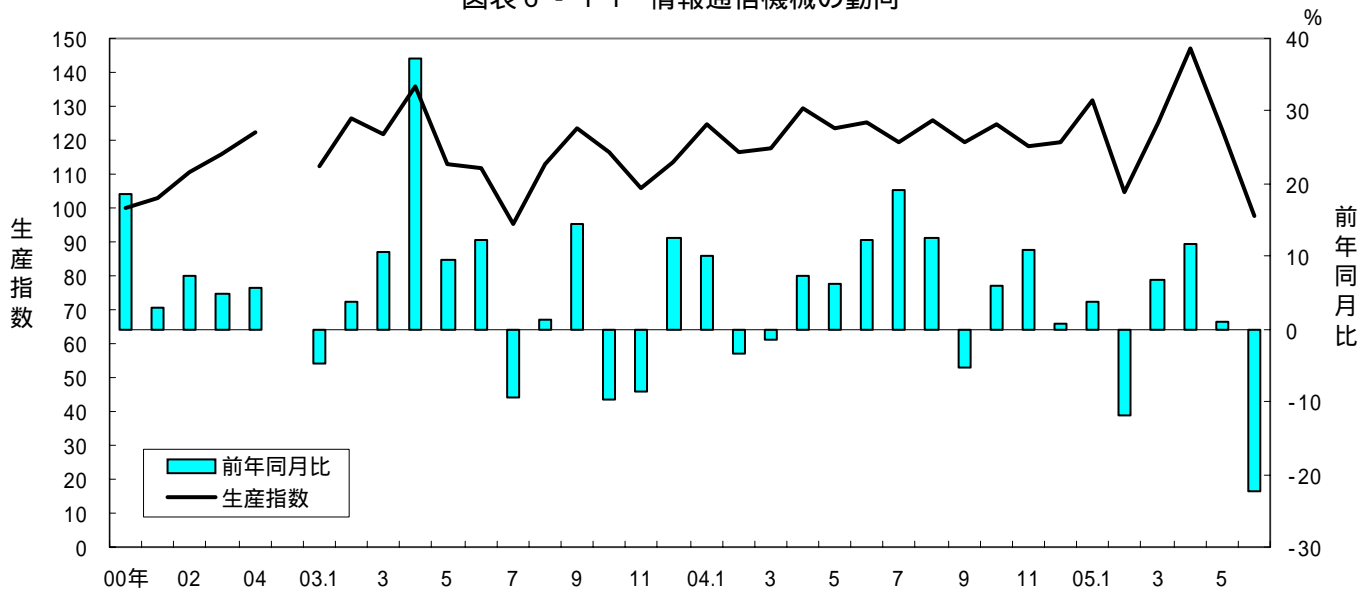
情報通信機械工業

2004年の情報通信機械工業の生産指数は122.3で、前年比5.6%増となり、5年連続で上昇した。これは民生用電子機械が前年比12.5%増、電子計算機が同2.9%増となったことなどによる。

00年に前年比18.5%増と急速に生産が拡大した

情報通信機械工業は、パソコン等の需要の一巡により、01年以降増加幅が縮小したが、03年は高性能携帯電話やデジタルカメラ、DVDプレーヤーなどが、04年はアテネオリンピック開催の効果などで薄型テレビやDVDプレーヤーが大幅に伸びたことなどにより、増加傾向が続いている（図表6-11）

図表6-11 情報通信機械の動向



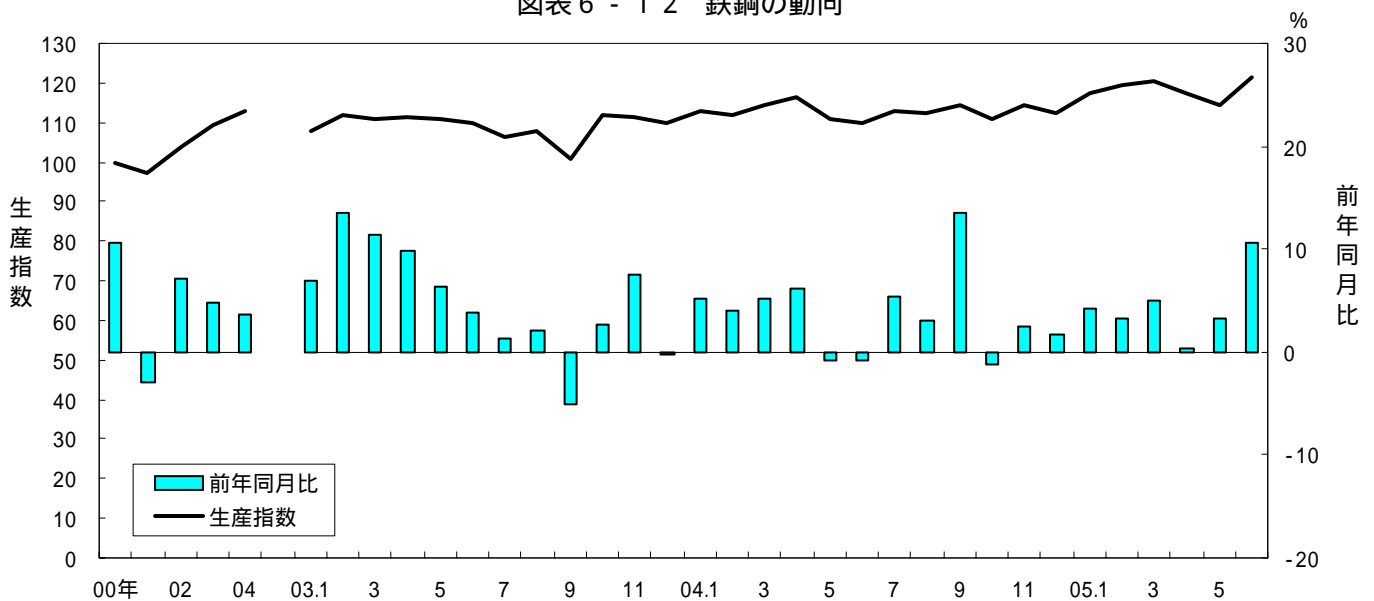
資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」

鉄鋼業

2004年の鉄鋼業の生産指数は113.0で、前年比3.6%増となり、3年連続で上昇した。これは主に熱間圧延鋼材が前年比5.7%増、鋳鍛造品が同9.3%増

となったことなどによる。自動車関連向けや産業機械向けなどを中心に好調に推移しており、05年に入ってから増加傾向が続いている（図表6-12）

図表6-12 鉄鋼の動向



資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」

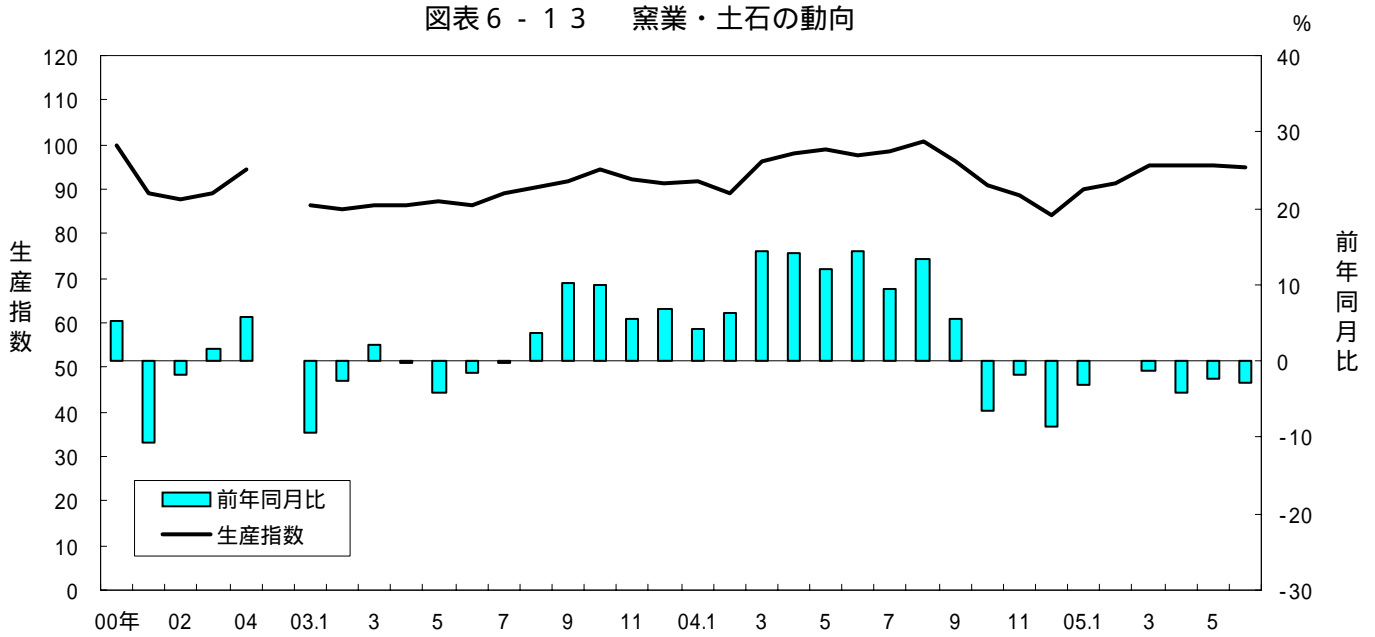
窯業・土石工業

2004年の窯業・土石工業の生産指数は94.4で、前年比5.9%増となり、2年連続で上昇した(図表6-13)

品目別にみると、ファインセラミックスだけが前年比増となり、陶磁器、ガラス・同製品など他の品目はすべて前年比減であった。これらの品目は、住宅着工件数の伸び悩み等に伴う新規需要の伸び悩みや安価な輸入製品との競合等により、減少または横ばいの傾向が続いている。

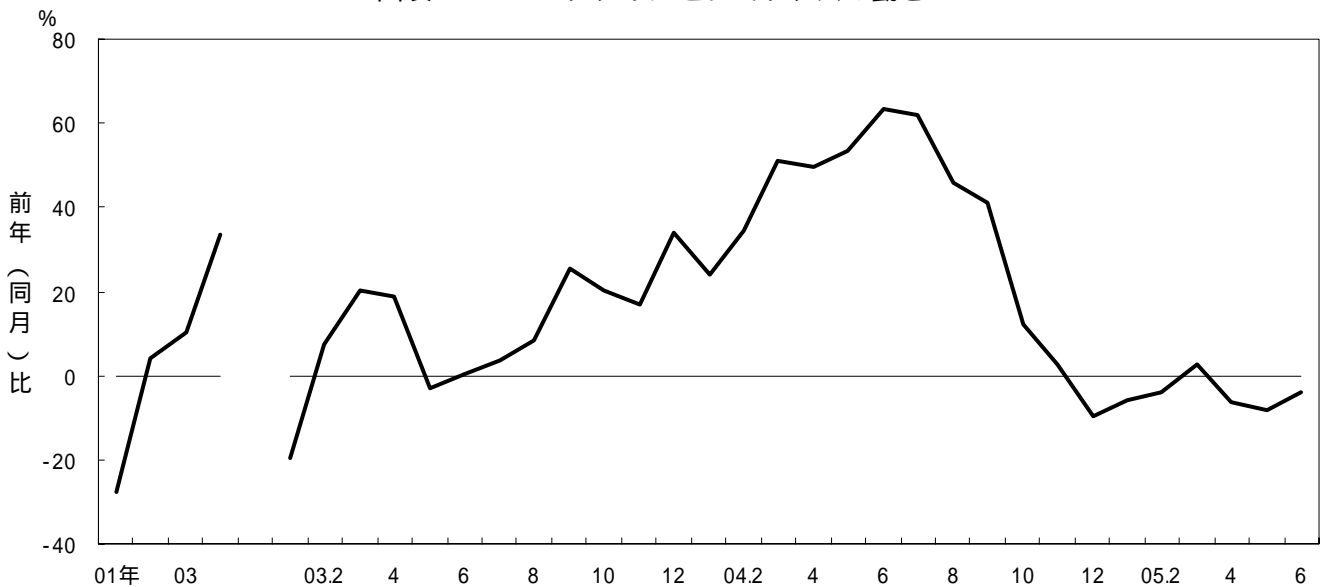
一方、ウェイトの高いファインセラミックスはITバブル崩壊により、01年に前年比27.9%の大幅減となったが、02年、03年と主に自動車の生産回復に伴って増加し、特に04年は、触媒担体など自動車関連向けが好調なことに加え、情報通信機器向けなども持ち直したことから、前年比33.3%増と大幅に増加した。なお、情報通信機器向けは04年末以降弱めの動きとなっており、ファインセラミックス全体でも横ばいの動きに転じている(図表6-14)

図表6-13 窯業・土石の動向



資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」

図表6-14 ファインセラミックスの動き



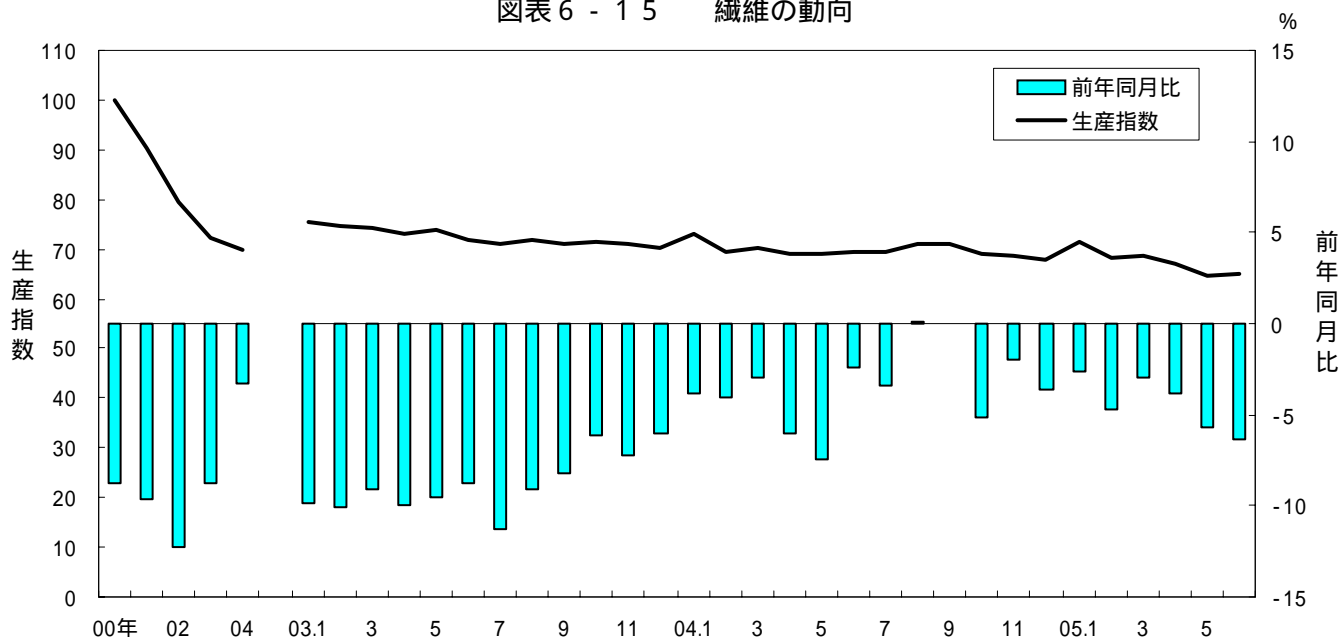
資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」

繊維工業

2004年の繊維工業の生産指数は69.9で、前年に比べ3.3%の大幅な低下となった。これは、主にウエイトの高い織物が前年比5.7%減となったほか、紡績糸が前年比14.8%減となったことなどによる。

繊維工業は、売り上げの停滞・減少、同業者間の競争激化、輸入製品との競争激化などのため、大幅な減少傾向が長期にわたって続いている（図表6-15）。

図表6-15 繊維の動向



資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」